

問題 1

株式会社明治製作所のP工場では、単純個別原価計算を採用している。製造指図書No.12023の品質検査中に一部に仕損が発生していることが判明した。そのため補修を行うこととし、補修製造指図書No.12023-Hを発行した。20X3年10月中に補修は完了したが、製造指図書No.12023は20X3年10月末時点で未完成である。各製造指図書に集計された製造原価は<資料>のとおりであった。次の①～⑤に答えなさい。ただし、当工場で使用している勘定科目は、材料、賃金、経費、製造間接費、仕掛品、仕損費、である。

<資料>

	直接材料費	直接労務費	直接経費	製造間接費
No.12023	1,250,000円	1,062,500円	362,500円	450,000円
No.12023-H	100,000円	125,000円	—	75,000円

- ① 20X3年10月15日に補修が完了した。補修に要した製造原価を仕掛品勘定に振り替えた際の仕訳を示しなさい。
- ② 20X3年10月15日に①の仕訳を行った後、補修製造指図書 No.12023-H に集計した製造原価（補修費）を、仕損費として処理した（仕損費勘定に振り替えた）際の仕訳を示しなさい。
- ③ 20X3年10月15日に②の仕訳を行った後、仕損費を製造指図書 No.12023 に賦課した際の仕訳を示しなさい。
- ④ 20X3年10月末時点で補修製造指図書 No.12023-H に集計されている金額を計算しなさい。
- ⑤ 20X3年10月末時点で製造指図書 No.12023 に集計されている金額を計算しなさい。

問題 2

株式会社明治製作所では、製品MMを製造・販売しており、単純総合原価計算を採用している。＜資料＞に基づいて、次の工場長と工場経理担当者との会話における①～④の空欄の金額を計算しなさい。

＜資料＞

1. 生産データ：

月初仕掛品	1,200	kg(0.4)
当月投入	6,000	kg
合計	7,200	kg
月末仕掛品	1,800	kg(0.5)
正常減損	900	kg
完成品	4,500	kg

()内の数値は、加工費進捗度を示す。

- 月初仕掛品原価は、直接材料費が 1,791,300 円、加工費が 2,927,100 円であった。
- 当月中に発生した直接材料費は 7,344,000 円であり、加工費は 22,080,960 円であった。
- 原料は工程の始点で投入している。
- 完成品と月末仕掛品への原価配分には先入先出法を用いている。
- 正常減損は、すべて当月投入分から生じている。正常減損費は、その発生点進捗度を考慮して関係する良品に負担させること。
- 計算過程で生じた端数は、計算の最終結果について円未満を四捨五入のこと。

工場長「今月の製品MMの単位当たり原価はいくらかね？」

経理担当者「はい、工場長。今月は正常減損の発生点進捗度が0.4でした。わが社では度外視法を採用しておりますので、当月の完成品総合原価は (①) 円となり、したがって単価は (②) 円となります。」

工場長「もし非度外視法で計算すると、正常減損費と製品MMの当月完成品原価はいくらになるかね？」

経理担当者「はい、工場長。非度外視法を採用した場合、正常減損費は (③) 円となり、したがって製品MMの当月の完成品総合原価は (④) 円となります。」

問題 3

明治工業株式会社においては、X事業部では部品Aを月間10,000個生産し、Y事業部ではX事業部から購入した部品Aに追加加工して、月間10,000個の製品Bを外部市場に販売している。部品Aおよび製品Bのデータは以下の<資料>のとおりである。

<資料>

	<u>部品 A</u>	<u>製品 B</u>
変動費	@500 円	@450 円
固定費	300 万円	250 万円
製造・販売数量	10,000 個	10,000 個
販売価格		@2,000 円

外部市場における部品 A の市場価格は@1,000 円であり、X 事業部から Y 事業部への部品 A の振替価格はこの市場価格を用いた場合、①X 事業部の限界利益、②X 事業部の営業利益、③Y 事業部の限界利益、④Y 事業部の営業利益を、それぞれ計算しなさい。

問題 4

以下の問題について解答しなさい。

- ① 標準原価概念についてタイトネスの観点から3つあげ、それぞれの概念について説明し、どの概念が原価管理目的に最も適しているか、その理由とともに論じなさい。
- ② プログラムド予算について、オペレーティング予算と比較して説明しなさい。

問題 5

次の用語について説明しなさい。

- ① 内部利益率法
- ② 労働装備率
- ③ EVA